

## 日本比較薬理学・毒性学会教育講演

- |                       |                    |   |
|-----------------------|--------------------|---|
| 第 164 回学術集会<br>(酪農大)  | 2021 年<br>9 月 7 日  | モチリンによる消化管運動の調節に関する比較生物学的研究<br>北澤 多喜雄 酪農大 獣医学群獣医保健看護学類  |
| 第 163 回学術集会<br>(山口大)  | 2020 年<br>9 月 15 日 | 硬組織疾患をターゲットとした創薬研究の過去と未来<br>朝霧 成挙 山口大・医学・薬理   |
| 第 162 回学術集会<br>(動衛研)  | 2019 年<br>9 月 11 日 | 動物の味覚の種間差を遺伝子から探る<br>松村 秀一 岐阜大学 応用生物科学部   |
| 第 161 回学術集会<br>(日生研)  | 2018 年<br>9 月 11 日 | 全身・全脳透明化の先に見えるもの<br>上田 泰己 東京大学医学系研究科 理化学研究所   |
| 第 160 回学術集会<br>(鹿児島大) | 2017 年<br>9 月 13 日 | 脳炎症モデル動物での神経紹介における膜結合性 PGE2 合成酵素-1 の役割<br>松尾 由理 北陸大学・薬・薬理   |
| 第 159 回学術集会<br>(日大)   | 2016 年<br>9 月 6 日  | 新薬開発と医療におけるモデリングの利用<br>樋坂 章博 千葉大学大学院薬学研究院 臨床薬理学研究室  |
| 第 158 回学術集会<br>(北里大)  | 2015 年<br>9 月 7 日  | ヒト医薬品の開発時における新たな薬物相互作用ガイドラインの最終案について<br>斎藤 嘉朗 国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部  |
| 第 156 回学術集会<br>(岐阜大)  | 2013 年<br>9 月 21 日 | 腸管粘膜固有層の自然免疫細胞群の機能解析<br>植松 智 東大・医科研 国際粘膜ワクチン開発研究センター<br>自然免疫制御分野  |
| 第 155 回学術集会<br>(東京大)  | 2013 年<br>3 月 29 日 | 温度感受性 TRP チャネルによる温度受容・侵害受容<br>富永 真琴 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター<br>細胞生理部門   |
| 第 154 回学術集会<br>(岩手大)  | 2012 年<br>9 月 15 日 | 各種動物における腎糸球体濾過量の簡易測定法の開発と臨床学的応用<br>古濱 和久 岩手大  |
| 第 153 回学術集会<br>(感染研)  | 2012 年<br>3 月 28 日 | 動物からヒトへのトランスレーショナルリサーチ:薬物性 QT 延長症候群<br>モデルおよび慢性持続性心房細動モデル<br>杉山 篤 東邦大学・医学部 薬理学講座                                      |
| 第 152 回学術集会<br>(大阪府大) | 2011 年<br>9 月 21 日 | インフラマソームによる炎症制御<br>小倉 裕範 奈良女子大学 生活環境学部 食物栄養学科   |
| 第 151 回学術集会<br>(農工大)  | 2011 年<br>3 月 31 日 | 心不全の基礎と先端医療<br>渡邊 哲 山形大学 医学部第一内科<br>東日本大震災により中止   |
| 第 150 回学術集会<br>(帯畜大)  | 2010 年<br>9 月 17 日 | 細胞膜における脂質分子のナノスケールレベルでの局在解析<br>藤田 秋一 名古屋大学 大学院医学系研究科 分子細胞学分野  |
| 第 149 回学術集会<br>(日獣大)  | 2010 年<br>9 月 17 日 | リポソームテクノロジーを基盤とする DDS と免疫療法の構築<br>丸山 一雄 帝京大 薬学部 生物薬剤学教室<br>ASK ファミリー分子によるストレス応答の制御と疾患<br>武田 弘資 東京大学大学院 薬学系研究科 細胞情報学教室 |
| 第 147 回学術集会<br>(日大)   | 2009 年<br>4 月 4 日  | 動脈硬化の分子機構:血管平滑筋細胞の分化調節の視点から<br>倉林 昌彦 群馬大学医学部 教授   |

Phytochemical の機能性とその作用メカニズム  
ガーリック由来の有機硫黄化合物の機能性を中心として

関 泰一郎 日本大学生物資源科学部農芸化学科 准教授

- 第 145 回学術集会 2008 年 トキシコゲノミクス (Percellome Project) を基盤とした分子毒性学の展  
(麻布大) 3 月 28 日 開の試み  
菅野 純 国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター  
毒性部
- 第 144 回学術集会 2007 年 プロスタノイドの循環器疾患病態形成における役割  
(酪農大) 9 月 4 日 牛首 文隆 旭川医科大学 薬理学講座 教授
- 第 142 回学術集会 2006 年 血管異常収縮 (攣縮) の分子機構の解明～分子標的治療薬の開発を目指し  
(山口大) 9 月 23 日 て～  
小林 誠 山口大学大学院・医学系研究科・器官制御医科学領域・生体機  
能分子制御学 教授
- 第 141 回学術集会 2006 年 侵害受容回路における神経情報伝達と可塑性  
(日獣大) 3 月 21 日 鈴木 秀典 日本医科大学 基礎医学薬理学講座 教授
- 第 140 回学術集会 2005 年 発育と老化に伴う味覚の変化  
(鹿児島大) 9 月 20 日 原田 秀逸 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授
- 第 138 回学術集会 2004 年 ストレスの脳科学  
(北大) 9 月 吉岡 充弘 北海道大学・大学院医学研究科 教授